

ジンバブエ国際理解教育

糸山 喜孝

神奈川県立大和南高等学校

実践教科：現代文・6時間

対象学年：高校3年生 対象人数：38人

(1) 実践の目的

ジンバブエの置かれている状況を広く理解してもらい、国際的な視野に立って物事を考える力を育てる。また、異文化を理解することによって、自分の国との習慣や考え方の違いを知るきっかけとするとともに、真の意味での生きる力、調和のとれた豊かな人間性や社会性の育成をめざし、他人を思いやる心、互いを認め合い、共に生きていく態度、自他の生命や人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心の育成をめざす。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
一時間目 ジンバブエを知る ねらい： ジンバブエを知り興味を持たせる。	ビデオを見て、説明を加えながらジンバブエを理解する。	* ジンバブエで撮ったビデオ
二～三時間目 ねらい： ジンバブエをイメージしながら世界の状況を考える。	「世界がもし百人の村だったら」を小グループに分かれて読み、それぞれのグループで関心を持った点について話し合う。 三時間目に行った、話し合いの結果の集約をし、それぞれのグループのものについて、発表しコメントを加える。三時間目のコメントの続きを済ませ、アフリカの地図で、ジンバブエを探し、新聞記事を読み、ジンバブエの置かれている状況を解説する。	* 「世界がもし百人の村だったら」ワークショップ版 を人数分印刷したもの * 班別に話し合ったことを記入する用紙を配布回収。 * 班別の話し合いの記録 * アフリカ地図 * JICA ジンバブエの新聞記事
四時間目 ねらい： ジンバブエの高校生と日本の高校生の意識の違いと共通点を探り、より深くジンバブエを理解する。	「大切なもの」ランキングを紙に書いてもらい、なぜそれを選んだのかを書いてもらう。 ジンバブエチェルトンゴ高校でのランキングの結果をクラスのものと比較する。	* 「大切なもの」ランキング・ジンバブエチェルトンゴ高校版 * 記入用紙人数分
五時間目 ねらい： ジンバブエ研修報告書を読むことによって、ビデオ	ジンバブエ研修報告書を読み、解説する。 見田宗助「旅の日記から」を読み、時間の考え方を探る。	* ジンバブエ研修報告書を人数分印刷したもの。 * 見田宗助「旅の日記から」プリント人数分。

<p>オでふれられなかったジンバブエの側面を理解する。</p> <p>六時間目 ねらい： ジンバブエの食料を食べてジンバブエの食糧事情を考える。</p>	<p>ジンバブエの食事についてコメントをしながら、サザを試食する。</p>	<p>* ジンバブエの写真をプリントアウトしたもの</p> <p>* サザ</p> <p>* レトルトカレー、レトルトハヤシ二種類</p> <p>* 器とスプーン五班分</p>
--	---------------------------------------	--

*一時限目

ジンバブエを知る。

ジンバブエで撮ってきたビデオを編集したものを見せる。ジンバブエの首都ハラレの様子を見ながら、銀行の様子、黒人と白人の比率、平均寿命についてのコメントをする。また、ワディロブ小学校での合唱祭の様子など日本との共通点のある点、チェルトンボ高校での活発な議論の様子などを伝える。世界遺産のグレートジンバブエやビクトリアフォールズの自然の美しさ。また、サファリツアーでの野生の動物たちの姿などを紹介する。

(生徒の反応)

ジンバブエの中心地が意外にも都会であることに驚いていた様子だった。ハットで暮らす人たちの姿を見て、都会との生活の違いにも更に驚いていた。また、子供達の人懐こさに対して、親しみが持てた様子だった。

*二時限目

「世界がもし百人の村だったら」のワークショップ

まず、人数分「世界がもし百人の村だったら」を印刷したものを配布し、最初の人だけ指名して、段落ごとにゆっくり大きな声で読んでもらった。そして、段落ごとに番号をつけて、生徒一人一人にどの段落が一番印象に残ったかをマークしてもらった。その際、印象に残ったことの内容はどんなことでもよいと指示をした。マークしてもらった後、若い番号から同じ箇所にマークした生徒にグループを作ってもらい、話し合いしやすいように、机をくっつけた。各班ごとに記入用紙を配布し、選んだ段落の番号、それぞれの話し合った内容①なぜこの段落を選んだか ②どのようなことが問題か ③それを解決するにはどうしたらよいか、などについて書いてもらい、班員の名前を記入してもらった。

(反省点)

初めての試みだったので、段落によっては問題点が見つかりにくかったり、解決の方法が書きにくい段落があった。また、班員が男女二人になってしまい、うまく話し合えない班ができてしまったので、別の活発な班に入ってもらおうべきだった。

(生徒の反応)

今までやったことのないワークショップを楽しんでいるようだった。また、世界の事情を改めて認識し直した生徒が多く、アメリカに世界の富の六十パーセントが集中している事実を知って驚くと共に、アメリカが世界に富を分配すればよいという発言があった。また、自分ができることと

して、どんな小さな事でも、やればよいと考える生徒が多かった。

*三時限目

三時限目に記入してもらった用紙を回収したものを、班別に読み上げてそれぞれがどんなことを考え、どんな問題点を見つけ、また、どのような解決手段があるかを紹介した。

その際、関連するところはジンバブエの事情を踏まえて話をしながら進めた。また、今学期の評論「人間の自由」の中の第三段落、「人間の存在の根っこから倫理の原液を吸い上げたゴッホ」の話と「ゴッホが吸い上げたのと同じ原液」をわれわれも持っている点についてコメントし、「電車の中で他人に席を譲る。路上で倒れ込んでいる病人を助け起こす。大地震の被災地にいくらかの義援金を送る」というような小さいけれども地道なことが、「ゴッホの吸い上げた原液」に繋がる行為であり、利害を抜きにした、人間としてのやみがたい衝動でもあることを説明する。

(反省点)

ジンバブエ事情を盛り込みながらのコメントであったため、ついコメントが長くなり、予定の一時間で終わらなかったこと。しかし、それも大切な部分だったので良しとする。

(生徒の反応)

ジンバブエの話と「世界がもし百人の村だったら」のワークショップとがうまく繋がってより深く世界の事情を理解できたようだった。また、授業の評論でふれた「人間の自由」の「ゴッホの吸い上げた原液」の比喩が、言葉の上だけでなく実際のこととして理解できた様子だった。

*四時限目

大切なものランキング。

- ①家族 ②友人 ③病気の時に治療してもらうこと ④快適な家
⑤きれいな空気 ⑥安全な栄養のある食べ物 ⑦教育 ⑧差別されないこと
⑨虐待されないこと ⑩宗教 ⑪その他に大切なものがあれば書く

を板書し、配布した用紙に大切だと思った順番にランキングをつけてもらい、なぜその順番になったかを書いてもらう。

書いてもらった後で、ジンバブエのチェルトンゴ高校で、やったランキングの結果を発表し、その共通点と違う点について解説する。ジンバブエでは①教育 ②家族

- ③快適な家 ④安全な栄養ある食べ物 ⑤友人 ⑥虐待されないこと
⑦差別されないこと ⑧病気の時に治療してもらうこと ⑨きれいな空気
⑩PC 宗教

三年一組のランキング

- ①家族・安全な栄養ある食べ物 ②友人 ③快適な家 ④虐待されないこと
病気の時に治療してもらうこと ⑥差別されないこと ⑦きれいな空気
⑧教育 ⑨宗教 ⑩携帯 ⑪お金 ⑫平和

- ① を選んだ理由としては、自分が困った時に、一番頼りになるから。

- ① 安全な食べ物があれば、病気もしないし、生きていけるから
- ② を選んだ理由としては、支えになってくれていて、いなくなると孤独になるから
- ③ 帰る家がなければ、暮らしていけない。家が快適でなければ、ストレスがたまる
- ④ 虐待のニュースをよく耳にし、死んでしまう子どもたちもいるから。
- ⑤ 大きな病気にかかったときには命にかかわるから。
- ⑥ 人はみんな平等だし、差別される側はとても辛いから。
- ⑦ タバコとか嫌いだし、常に吸うものであるから大事。
- ⑧ ないと コミュニケーションがとれないし、ある程度の常識は身につけておかないといけないから。
- ⑨ 宗教はやっていないし、入らないし、あまり関係ない。信じている人には大切かも。
- ⑩ 携帯はみんなと連絡とったり、暇つぶしにも必要
- ⑪ お金はないと何もできないし、とても大切。

という結果だった。

クラスでその結果を公表し、クラスのランキングを読み上げながら、ジンバブエチェルトンボ高校の生徒との共通点、異なる点を指摘し、解説する。

(生徒の反応)

大切なもののランキングは、生徒の取り組みが真剣で、書き終わった後にジンバブエのチェルトンボ高校のランキングを発表したことは、同じ高校生という意識があっただけか、とても興味があったようだった。また、ジンバブエの高校のランキングの違い（特に一位）に、多くの生徒が考えさせられている様子だった。

*五時限目

ジンバブエ研修報告書の解説。

ジンバブエ研修報告書を読みながら、デジカメで撮った写真を提示して、(写真①～⑩) それぞれの場所で研修して得たことを生徒に伝えた。特にビデオで紹介できなかった部分を中心に、ハラレポリテクカレッジの学生の勉強に対する取り組みの様子。院内感染によるエイズに苦しむ孤児院の孤児の様子。国に二つしかない養護学校の様子や、そこでのジャイカ隊員の苦労の話などを織り交ぜながら、話した。

(反省点)

報告書を読んで解説するだけだと単調な授業になってしまい、欠伸をしたり、退屈そうな生徒がいたこと。途中から示したジンバブエの写真は好評で、視覚に訴えるやり方の方が、生徒にはすんなりと入っていけるようだった。事前に話の順番に写真を並べておかなかったことが後悔された。これからは、班別に分けて写真をチョイスし、それについてコメントしてもらおうフォトランゲージのやり方の方がよいと思った。

(生徒の反応)

報告書の書き方などに興味を示す生徒や、その量の多さに驚く生徒がいた一方で、はじめのところで、話が一方的になってしまった部分では、退屈だったかもしれないと思った。

その様子で途中から写真と照合させながら話した時には、反応は良く、初めからこうしておけば問題はなかったのだとこちら側の準備の問題に気付かされた。

*六時限目

ジンバブエの母国語であるショナ語の挨拶などを紹介した。その後、見田宗助「旅の日記から」を読み、日本や先進国に流れる時間の質と行進国に流れる時間の質の違いを考えさせた。「近代化というものが、どういう喪失の上に成り立っているか」という部分では、「人が、ゆったりと色々なことを考える時間」と答えた生徒がいた。

「時間を費やした」「有効な時間」「無駄な時間」という発想時代が、近代化された人の発想で、メキシコのトトニカパンの人々には「時間を費やす」という発想ではなく、どんな時間も等価に充実していることを説明した。「今」という時間をいかにリアルに感じるかが大切だということ。「今」という時でない時間はなく、一つの社会システムが、時間を有効なものと無効なものに分けているということを説明した。その後、生徒にグループを作ってもらい、グループで、作ってきたサザを試食して感想を聞いた。その際、サザだけでは味がないので、カレーとハヤシのレトルトしたものを温めてそれをつけて食べるように指示した。大多数の生徒は期待していた味と異なっていたようで、「まずい」とはっきり言う生徒もいた。日本の米がどれほどおいしいのか分かったという生徒もいた。

(反省点)

見田宗助『旅の日記から』は、先進国と発展途上国の違いを普通とは違った視点で捉えたもので、二十五分で解説を終わるのには勿体なく、無理があったので、時間を最低二時間はとりたいと思った。次回評論 山崎正和の『現代の個人主義』のテーマ今日の日本社会の置かれた現状分析、大量消費社会に結びつける終わり方にしたのは良かった。

(生徒の反応)

「旅の日記から」の「時間」の感覚の違いの話は、途中で挿入したインド人と日本人の対話の話を含めて、生徒にはわかりやすかったと感じられた。生徒も日頃忙しすぎる日常の時間の進み方に対して、もう少しじっくりと時間を味わう方が、実になる時間の使い方なのではないかと日常的に考えていることが分かった。

また、前回予告した時に過度に期待していた生徒もいて、ジンバブエのサザの味がとてもまずかったと正直に言う生徒の殆どが、それが日本の米のおいしさと日本の食文化の素晴らしさに気付くきっかけになったとアンケートに書いてくれたのは嬉しかった。

また、今回のジンバブエ国際理解教育の時間に対しては、初めての試みで、不備な部分もあり、不安な部分もあったが、殆どの生徒が、普段ふれることのできないことを知ることができてとても良かったと書いており、生徒達の世界への視野を広げ、国際理解の第一歩に繋がったことはとても嬉しかった。

また、異文化を理解することによって、自分の国との習慣や考え方の違いを知るきっかけとともに、真の意味での生きる力、調和のとれた豊かな人間性や社会性の育成をめざし、他人を思いやる心、互いを認め合い、共に生きていく態度、自他の生命や人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心の育成をめざすということについては、予想以上の成果が得られたと思っている。